

フィリピン分会報告 “The Forum on Structural Resilience to Earthquakes and Typhoons through Sustainable Civil Engineering”の開催

土木学会フィリピン分会はフィリピン大学工学部およびフィリピン土木学会とともに、2014年1月30日に“The Forum on Structural Resilience to Earthquakes and Typhoons through Sustainable Civil Engineering”を開催いたしました。本フォーラムは昨年フィリピンで相次いだ地震と台風による甚大な被害を受けて、土木学会とフィリピン土木学会、フィリピン大学工学部等が実施した共同調査の結果を報告することで、災害の実態の情報を共有し、今後の対策についての国際的な協力の強化を目的として開催されました。



フィリピン大学工学部長による開会の挨拶

フォーラムはフィリピン大学工学部長と土木工学科長の挨拶によって始まり、フィリピン土木学会と土木学会会長からのメッセージが披露されました。橋本会長からは今回の台風災害による多くの犠牲者に対して哀悼の意を表するとともに、今後の災害マネジメントに対しての国際的な協力関係のさらなる強化を図っていくとのメッセージが伝えられました。

フォーラムは2部構成で、前半は地震セッションで後半が台風セッションでした。土木学会からは2つの興味深い発表がなされました。一つは、現在国土交通省より JICA 専門家としてフィリピンの公共事業道路省に派遣されている佃誠太郎氏より、地震セッションにおいて "Reconnaissance of Highway Bridge Damages due to the 2013 Bohol Earthquake in the Philippines" と題した報告です。佃氏は、ボホール地震における橋梁の損害を、国交省の技術者を中心とした JICA 調査団の一員として詳しく調査され、その調査結果を提示するとともに、現在の問題点と今後の橋梁の耐震設計の在り方についての提言をされました。地震セッションではこのほかにフィリピン火山・地震研究所、フィリピン大学土木工学科およびフィリピン土木学会・フィリピン構造工学技術者協会からも報告がありました。それらの報告では、今回のボホール地震による建物や地盤等の損害調査を通じて、今後の地震に対する備えとして何が必要なのか報告されました。



佃誠太郎氏のプレゼンテーションの様子

続いて行われた台風セッションでは、11月の Haiyan/Yolanda による高潮被害についての報告がなされました。土木学会からは、土木学会とフィリピン土木学会の合同調査チームの一員であった京都大学の安田助教より "Report of JSCE-PICE Joint Survey on the Storm Surge Disaster caused by Typhoon Haiyan/Yolanda" と題して報告をいただきました。そこでは、今回の高潮による被害の実態が示され、大きな被害をもたらされた原因についての検討結果が報告されました。台風セッションではこのほかにもフィリピン科学技術省・全国災害危険評価部門、フィリピン気象庁、フィリピン土木学会とフィリピン大学土木工学科からも報告がなされました。それらの報告では、台風とその被害についての調査結果に基づいて、特にレイテ島で被害が拡大した原因についての分析結果について報告がなされました。

本フォーラムには100人以上の土木技術者の参加があり、またその20名以上が在フィリピンの日本企業の土木技術者でした。参加者は今回の被害の実態とこれからの対策についての提言について熱心な討議を行い、有益な情報共有が図られました。朝からの長時間にわたったフォーラムは、土木学会フィリピン分会のシグア分会長の挨拶で閉会となりました。

【記：国際センター交流 Gr.フィリピングループ・フィリピン分会】